

大塚グループは、革新的で創造性に富んだ製品やサービスを通じて人々の健康に貢献することを使命と考え、同時に企業市民として「健康」「自然環境」「地域社会」をキーワードとした社会貢献活動を推進しています。

熱中症対策出張講座（大塚製薬）



## お客さま・患者さん



### 熱中症対策啓発活動

水分補給の重要性を中心とした「熱中症を知って防ぐ」ための情報提供を、社員が学校や企業など現場に出向いて行う出張講座やセミナー、学会活動、ウェブサイトなどで積極的に推進しています。アジア各地でも汗をかくシーンに合わせてタイムリーに情報を伝え、熱中症対策の啓発をしています。



### メディアセミナー・市民公開講座の開催

患者さんや家族、医療従事者など多くの方々に、がんや統合失調症などの疾患に対する正しい情報を持っていただくため、メディア向けセミナーや市民公開講座を開催しています。患者さんが希望を持って人生を歩むことができるよう支援したいと考えています。

## 地域社会



### アフガン難民のための無料診療所を開設

パキスタンのパシャワールにアフガン難民のための診療所「大塚ウエルフェアクリニック」を開設し、援助の必要な患者さんを無料で診療しています。女性や子どもの患者さんを中心にこれまで65万人以上が当診療所を訪れました。



### あどぷと・エコスクール

徳島県や大学など官民学協働で進める「環境首都 あどぷと・エコスクール」制度に基づき徳島市内の中学校と協定を結んで環境学習をサポートしています。子どもたちにとって自分の住む地域の環境保全に関心を持つ良い機会となっています。

## 社員

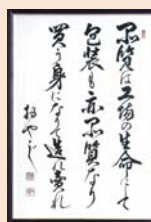


### 事業所内保育所の開設

社員が働きやすい環境を整えるため、徳島の事業所内に「ビーンスターク保育園とくしま」を開設しました。徳島県産の大きな杉の木を柱や床に使用したメインホールでは、子どもたちが毎日元気に駆け回り、楽しそうな笑い声と同じ敷地にある職場にも響いています。

## 品質向上・管理

大塚グループは、生命関連企業として、製品を手にするお客さまや患者さんのことを第一に考え、製品の品質や管理において安全性を最優先し事業活動に取り組んでいます。厳格な品質保証体制のもと、安全・安心かつ高品質な製品の供給に努めます。



「品質は工場の生命にして  
包装も亦品質なり  
買う身になりて造れ売れ」

大塚グループの創業者、故大塚武三郎の書

### 医療関連事業

#### 創造的な、高品質製品の安定供給を目指して

大塚グループでは、研究開発から新しく生まれた創造的な製品を安定供給するため適正な製造コストと環境問題への取り組みを重要視し、これらを同時に満足できるような製造技術、品質管理技術の確立に努めています。医薬品治療薬の原薬から最終製品まで、世界に通じる高品質製品の生産活動を追求しています。

#### 品質管理における国際ルール策定への取り組み

輸液は、直接ヒトの血管に入る医薬品のため、厳しい品質管理が求められます。大塚グループの輸液製造においては、これまでも海外7カ国にある9工場と品質基準を取り決め、共通の評価ルールを策定して安定した輸液供給ができる仕組みを構築してきました。

現在、各国がPIC/S※1加盟を進め国際的なGMP※2で製造・品質管理を行いつつあります。大塚グループもこれまでの各国GMP順守に加え、国際ルールに基づいた製造を行い品質の維持向上に努めています。

※1 PIC/S：医薬品の品質システムおよびGMP基準の世界調和を推進している共同査察組織のこと

※2 GMP：医薬品の製造管理および品質管理について、各国が定める基準のこと

#### ユニバーサルデザインを取り入れた包装

「ティーエスワン配合顆粒」(抗がん剤)の包装には、ユニバーサルデザインを取り入れ、飲みやすさを考慮した、医薬品では数少ないスティック包装を採用しました。そのため、食品などと間違えて服用することのないよう、医薬品名を大きく表示するとともに、国内の医療用医薬品として初めて「ピクトグラム」を掲載しました。さらに、従来のアルミ包装に替えて、チャック式の専用保管アルミ袋を開発しました。患者さんがこの専用袋を他の薬剤や食品などと分けて保管することで、混在による誤飲を回避する効果をもたらしています。

こうした誤飲防止への工夫が認められ、社団法人日本包装技術協会主催2011日本パッケージングコンテストの「医薬品・医療品包装部門賞」を受賞しました。

#### Point.1

食品ではないことを明確にするため、薬品名を大きくくつきりと表示

#### Point.2

国内の医療用医薬品として初めて「ピクトグラム」を掲載

#### Point.3

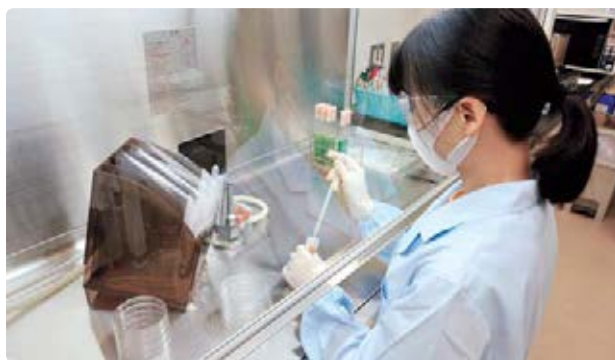
チャック式の専用アルミ袋を開発し、他の医薬品や食品との混在を防止



### ニュートラシューティカルズ関連事業

#### 医薬品と同等の品質管理

大塚グループでは、ニュートラシューティカルズ事業の食品や飲料においても、医薬品と同等の厳格な基準で品質管理をしています。あわせて、各工場にて、食品安全に関する国際基準ISO22000の認証取得を進め、グローバル化した食の安全・安心への対応はもちろん、高品質な製品づくりと安定した製品供給に努めています。



大塚製薬 徳島板野工場品質管理棟

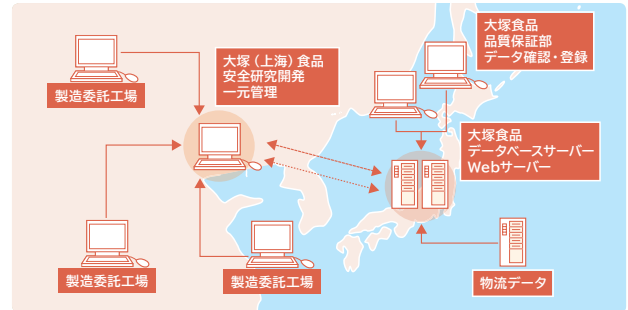
## 消費者関連事業

### 食品原材料の安全・安心への取り組み

大塚グループでは、食の安全性を心配される消費者の皆さまに安心していただけるよう努めています。

大塚食品ではトレーサビリティシステムを確立し、農産物の情報、加工・製造工程での管理・検査記録、加工品の検査記録などを保管して、製品に使用した農産物までの履歴をさかのぼって確認しています。中国産の食品については、CNAS認定※を受けている大塚（上海）食品安全研究開発が厳しい基準を設けて検査し、安全性が確認できたものだけを日本に供給する体制を整えています。

※ CNAS 認定：中国合格評定国家認可委員会（CNAS）による国際的な試験所認定規格である ISO/IEC17025 に基づく「試験所認定」のこと



トレーサビリティシステム

## その他の事業

### 品質情報を社内ネットワークで共有化

大塚グループでは、情報を適切に管理し、品質の向上に努めています。

大塚化学では、品質情報をオンラインで共有し、各管理部署が迅速に対応できるシステムを構築しました。

これまでのお客さまからのご要望やご指摘をはじめ、社内不適合や工程異常、原料などの品質情報について、関係者のみに対応していた状況を改善したもので、今回のシステム導入により、品質情報を各管理部署へ迅速に展開し、その後の対応の進捗管理を確実にするとともに、過去事例の情報検索が容易になりました。

今後は、さらに情報を蓄積、解析することで、品質にかかわる課題やリスクの削減につなげたいと考えています。

### 設備保全システムの導入

大塚グループでは、各工場において設備保全の向上に取り組んでいます。そのなかで大塚化学は、「世界レベルの設備保全体系構築」を目標とし、2011年に設備保全システムを導入しました。4,500機器を超える設備の保全情報を一元化し、設備トラブル防止と機会損失の低減を可能にしました。また、iPadなどのスマートデバイスを用いて、故障・修理・部品の交換状況を容易に把握し、最適な機器・部品調達を行っています。

このシステムの活用と月1回の保全報告会にて情報交換を行い、保全スキルの向上と伝承に取り組んでいます。



## グループ共通

### お客さまの声を聞く仕組み

大塚グループでは、製品の種類などにより、各専門部署にてお客さまからの問い合わせに対応しています。

医薬品への問い合わせは、医薬品専門の窓口で受けています。2011年4月には、輸液・栄養製品専門の輸液DIセンターを独立させて新設し、より専門性の高い対応が可能になりました。グループ全体で患者さんや医療機関から年間約10万件の問い合わせをいただいています。また、ニュートラシューティカルズ事業の製品や消費者製品については、お客さま相談室でお応えし、年間約6万件の問い合わせをいただいています。化粧品や医薬部外品については、担当事

業部のお客さま相談窓口で受けています。そのほか、就業時間外（17:30～翌朝9:00）の対応窓口を設置し、お客さまからの声や意見に対していつでも対応できる体制をとっています。

こうした問い合わせへの対応を通じて、製品の適正使用の推進を図るとともに、寄せられた情報・要望・意見を集約して分析し、製品の改善や改良につなげています。

## 社会貢献活動「健康増進への取り組み」

大塚グループでは、自然環境、地域社会に配慮し、良き企業市民として、大塚グループならではの社会貢献活動に取り組んでいます。

### 大塚グループの社会貢献活動

#### 社会貢献活動の基本理念

大塚グループは、‘Otsuka-people creating new products for better health worldwide’の企業理念のもと、人々の健康への貢献を使命として事業活動を展開すると同時に、生命関連企業としての自覚に基づき、これまで培った知識や経験、人材などの経営資源を活用して広くコミュニケーションを行い、良き企業市民として積極的に社会貢献活動に取り組めます。

#### 社会貢献活動の方針

大塚グループは、「健康」「自然環境」「地域社会」の3つのキーワードで、人々の健康に貢献するための社会貢献活動を推進します。



## 医療関連事業

### ウェブを通じたさまざまな情報発信

お客さまとのコミュニケーション窓口のひとつとして、グループ各社のホームページ上で、企業情報や製品情報に加え、健康や疾患に関するさまざまな情報提供を行っています。

大塚製薬では、そのひとつとして、近年再び関心が集まりつつある結核について正しい知識を得ていただくため「結核一古くて新しい病気」という専門ページを開設し、予防・感染・治療についての情報提供を行っています。大塚薬品では、静岡県立静岡がんセンターと共同で、がんを経験された方をはじめ、そのご家族や医療スタッフなど関連するすべての方々を支援するため、「SurvivorSHIP.jp」を開設し、「抗がん剤・放射線治療と食事のくふう」と題してレシピを紹介しているほか、がんに関するQ&Aなどを掲載しています。また、iPhone/iPadアプリケーションとしても同コンテンツを提供しています。

ほかにも、「熱中症を予防しよう」や「メタボリックシンドローム教室」など、さまざまな角度から健康情報を提供しています。



iPhone/iPadアプリケーション『がん治療と食事』

### メディアセミナー・市民公開講座の開催

最新の医療情報を広く社会に伝えるために、メディアセミナーや市民公開講座を開催しています。

がん医療情報の伝達を目的としたオンコロジーメディアセミナーは2006年以来14回、統合失調症をテーマにしたセミナーは10回を数え、最前線で活躍する医師がメディア関

係者に対して講義を行いました。統合失調症の理解促進のため開催に協力している市民公開講座では、広く疾患について理解を得るために、精神科医だけでなく、統合失調症と付き合いながら地域で暮らしている方にもご登壇いただきました。また、患者さん同士のコミュニケーションを支えるため、「がん患者大集会」の支援を7年間続けています。

### ピンクリボン運動を応援

現在、日本人女性の16人に1人が乳がんになると言われています。大塚薬品では、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを啓発する「ピンクリボンフェスティバル」（東京や神戸などで開催）に参画しています。2011年のシンポジウムでは、オリジナルの啓発グッズ、自己検診パンフレットなどを配布し、参加者の検診への意識を高める活動を行いました。

社内でも受付に啓発グッズやポスターを設置し、乳がん患者支援サイトの充実など独自のピンクリボン運動を展開し、応援しています。



2011年ピンクリボンフェスティバル東京会場

## ニュートラシューティカルズ関連事業

### 熱中症対策啓発活動

大塚グループでは、熱中症対策の啓発活動として、子どもたちのスポーツシーンや職場での労働安全衛生、高齢者の水分補給など、さまざまなシーンにおける水分補給の重要性を伝えています。小・中・高校生に対しては、熱中症対策セミナー「大塚アカデミー・公開スクール」を過去12年間に2,574校で実施し、約50万人が参加しています。



大塚製薬 中学校での出張講座



東亜大塚(韓国)スポーツクラブでの説明会

海外においても、積極的に啓発活動を行っています。2011年、中国では、水分補給を通じた熱中症対策をテーマに3,300回、約54,000人に説明会を実施しました。韓国で

は、運動部やボーイスカウトなど、汗をかく機会が多い人々を対象に、全207回の説明会を開催しました。台湾では27回、4,571人を対象にセミナーを実施。フィリピンでは国営病院に周辺住民を集めて100回以上の講習会を実施しています。今後も熱中症に関する知識の定着を目指し、アジアを中心に活動を続けていきます。



大塚慎昌(広島)飲料 地域集会でのセミナー

### OTSUKA 漫画ヘルシー文庫

健康をテーマにした漫画文庫を1989年から毎年1巻ずつ発刊し、全国の小・中学校や海外の日本人学校に寄贈しています。健康の専門家が監修し、ちばてつや氏、やなせたかし氏、フジオプロなど、著名な漫画家が執筆。学校では、保健室や図書室に置かれ、児童、生徒が閲覧するほか、先生や保護者の資料としても広く利用され、「漫画でわかりやすい」「児童が健康に関心を示すようになった」などと喜ばれています。また、漫画はウェブでも見ることができます。



## 消費者関連事業

### My First Water Project

「子どもが水を選べるようになるまで、水を選ぶのは親の役目である」を理念に、育児における水の重要性について考えることを推進するプロジェクトをスタートしました。小さなお子さんのいる保護者を対象に、安全・安心な水の選び方など水についてのさまざまな情報提供を行い、2012年は、親子で集うイベントや幼稚園向けに作成したオリジナル絵本などで告知を行いました。



オリジナル絵本

# 社会貢献活動「地域コミュニティへの取り組み」

交流・協働・ボランティア

## 1 阿波おどり



徳島の誇りである郷土の伝統文化を受け継ぎ、将来に伝えていくという目標を持って、徳島の夏を彩る阿波おどりに毎年グループから4つの連が参加し、華やかな踊りを披露しています。大塚連(大塚製菓)は、正調阿波おどりの厳しい指導と審査をクリアした精鋭揃いの本格派。大塚うず巻連(大塚製菓工場)は、鳴門市で最も古い歴史を持つ「うず巻連」の名前を継承、大塚国際美術館の浴衣や法被で参加しています。チオビタ連(大鵬薬品)と大塚はつらつ連(大塚化学・大塚倉庫・大塚食品)には、社員の家族も参加し、親子の交流の場となっています。

## 2 無料ライブコンサートの開催



大塚製菓と大塚テクノは、毎年、阿波おどりの時期に、無料の野外コンサート「Exciting Summer in Wajiki」を、地域と協力して大塚製菓の徳島ワジキ工場敷地内で開催しています。地域の発展と活性化を願い、1990年から毎年開催しているもので、今では多くの若者や家族連れが集まる夏の風物詩のひとつとなっています。2011年は、国民的人気のDREAMS COME TRUEや若手アーティストのmiwa、奥華子らが出演。人口約1万人の町に全国から約2万5000人が集まり、大きな賑わいをみせました。

また、阿波おどりの前夜祭として、大塚化学は、地域に対する文化貢献を目的に、同じく1990年より「オロナミンC 阿波おどりサウンドフェスティバル」という無料音楽イベントを行っており、毎年徳島の夏を盛り上げています。

## 3 とくしま協働の森づくり事業



大塚製菓工場と大鵬薬品は、徳島県の地球温暖化対策推進条例に基づく「とくしま協働の森づくり事業」に協力しています。2011年は、三嶺山麓(みうね)や三好市祖谷溪(みやけい)の間伐について協定を締結し、間伐費用を負担しました。11月には、社員と家族を交えた間伐体験会を実施。これらの取り組みにより、水源保全など森の持つ機能の発揮や、樹木の成長による二酸化炭素の吸収などの効果が期待されます。

## 4 花巻まつりへの参加



イーエヌ大塚製菓は、地域の活性化を願い、東北最大級の神輿が参加する花巻まつりに自前の神輿で参加しています。パレード時には、うちわや「ポカリスエット」の提供を行い、祭りを盛り上げています。

5 7 8

1 2 3 4 6

5 レース・フォー・ライフ



大塚ファーマシューティカルヨーロッパ（イギリス）の女性社員7人が、がん研究・リサーチUKが主催するイギリス最大の女性限定チャリティイベント「Race for Life」に参加しました。がん撲滅への願いを込めて走るとともに、がん治療研究のために社員が募金をし、寄付をしました。

6 「あさん地球フェスタ in いたの」の共催



大塚製薬の徳島板野工場は、地元阿讃山脈を歩く「あさん地球フェスタ in いたの」を地元と共催しています。「人と環境にやさしい工場」として徳島のすばらしい自然を県内外に伝えることが目的です。工場を経由するコースを歩いた参加者からは、「楽しみながら健康を考える機会となった」と好評でした。

7 ファン・ラン/ラン・フォー・ライフ



大塚ファーマシューティカルフランスは、世界エイズ・結核・マラリア対策基金を支援するため、パリで凱旋門の周りを走るラン・イベントに参加し、基金への寄付を行いました。

8 クリスマスキャンペーン2011



大塚ファーマ（ドイツ）では、社員が、孤児、ストリートチルドレンなど、恵まれない境遇にいる子どもたちにクリスマスプレゼントを寄贈しています。2011年は、社員が用意したプレゼントに会社がマッチングして、合計で約300個のプレゼントを贈りました。



# 社会貢献活動「地域コミュニティへの取り組み」

## 次世代育成

### 1 チャリティイベント「SATU HATI (心をひとつに)」を開催し図書館を寄贈



アメルタインダ大塚は、地元インドネシアの発展に貢献したいという願いから、地域との融合を目指し、未来を担う子どもたちの教育に視点をおいた活動を積極的に行っています。

2007年から毎年実施している「SATU HATI(心をひとつに)」と名付けたチャリティイベントでは、チャリティコンサートや大勢の人が集う場所での募金活動などさまざまなアプローチを通じて募金を集め、学校に図書館を設立したり、本を寄付したりしています。2011年は4つの図書館を建て、2007年から2011年までに建てた図書館は20館、寄付した本は10万冊以上となりました。

また、「ポカリスエット」を製造しているクジャヤン工場では、敷地内にサッカー場やモスク、地域教育センターを設置し、地域の方々や子どもたちに開放しています。さらに、地域教育センターにて、イベント名にちなんで名付けた「SATU HATI塾」を週1回開催し、社員が交代で読み書きや計算を教えています。放課後に集まった子どもたちは懸命に鉛筆を走らせ、物語を書き取るなど、楽しい時間を過ごしています。

### 2 塗り絵帳を通じた環境学習支援



大塚ファーマ(ドイツ)は、年1回、小学生の子どもたちに、環境保護に重点をおいた「塗り絵帳」を贈る活動にスポンサーとして協力しています。子どもたちが塗り絵を通して、楽しみながら環境や生態系への関心や意識を高められるよう、動物や鳥などのイラストがふんだんに使用されています。塗り絵帳は、フランクフルトにあるすべての小学校に配布されています。

### 3 子どもたちと一緒に国立自然科学博物館(ゼンケンベルグ)へ遠足



大塚ファーマ(ドイツ)の社員ボランティアは、養護施設の12人の子どもたちと、ドイツ最大級の国立自然科学博物館(ゼンケンベルグ)を訪れ、生物の進化や多様性について楽しく学びました。ガイドツアーに参加した後は、博物館のレストランでランチをするなど、子どもたちは充実した夏の1日を過ごしました。



**4** あどぶと・エコスクール



大塚製薬、大塚化学、大鵬薬品は、徳島県や大学など官民学協働で進める「環境首都 あどぶと・エコスクール」制度に基づき、徳島市内の中学校と協定を結んで環境学習をサポートする活動を2007年より継続して行っています。

2011年は、徳島市立徳島中学校の1年生162人を対象に、身近な水に関する授業、水質調査の説明を行い、その後、近隣河川の環境調査、工場内排水処理施設の見学などを行いました。学習の仕上げには、生徒たちが新聞形式で「川と私～地域の水資源・水環境について考える」と題した学級文集を作成。参加した中学生からは、「身近な水環境について知ることができた」「何気なく利用している水が大切な資源であることがわかった」「これからは、私たちが水の大切さを伝えていきたい」といった声が寄せられ、環境保全に対する意識の向上が見られました。

**6** 「ふるさとと田んぼと水」  
子ども絵画展2011に協力



大塚ホールディングス賞  
「ゆたかなみのり」

大塚グループは、未来を担う子どもたちが絵画を通じてふるさとのおもしろさを発見することを願い、「ふるさとと田んぼと水」子ども絵画展に協力しています。2011年は「大塚ホールディングス賞」や記念品の提供を行いました。

**5** とやまエコキッズ探検隊



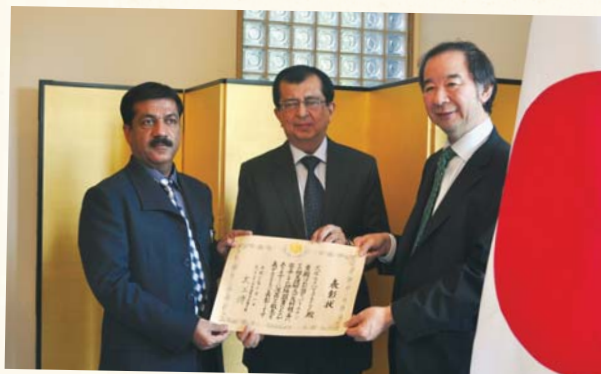
大塚製薬工場 富山工場は、富山県の「とやまエコキッズ探検隊」プログラムの「エコ企業探検コース」に選ばれ、積極的に環境配慮に取り組む企業として、子どもたちが工場見学に訪れました。

当日は、小学校4～6年生と保護者に対し、会社紹介、環境対策を紹介した展示パネルの説明、輸液製造工場の見学、輸液容器の多室化によるエコ化・リサイクル事例の紹介、白濁した液体がきれいな水に変わる排水処理の実験や処理施設の見学などを行いました。参加者は、クイズやバッグ製剤の開通にチャレンジし、企業のエコ活動に興味津々の様子でした。

# 社会貢献活動「地域コミュニティへの取り組み」

## 地域支援

### 1 アフガン難民のための無料診療所「大塚ウエルフェアクリニック」



大塚製薬と大塚パキスタンをはじめアジア・アラブ地域で事業を行うグループ24社が協力し、2003年、パキスタンのペシャワールに、アフガン難民のための診療所「大塚ウエルフェアクリニック」(Otsuka Welfare Clinic)を設立し、援助の必要な患者さんの診療を無償で行っています。

この診療所は、アフガン難民キャンプの人々が衣食住もままならない環境におかれている問題に対し、アジア・アラブで事業を行う生命関連企業として貢献できることを検討し、設立したものです。当時、多くの企業や団体が行っていた援助物資の提供に代えて、大塚グループは自らの手で病気に苦しむ人々を助ける方法を選びました。また、難民キャンプの人たちだけではなく、近隣住民の診療も行い、周辺医療機関の混雑緩和にも役立っています。1日およそ260人の患者さんが当診療所を訪れ、これまでの受診者は65万人を超えました。また、2010年7月の集中豪雨による洪水時には、特に被害の大きかった近隣の難民キャンプで臨時救護所を開設し、診療にあたりました。

こうした8年間にわたる医療活動が「地域福祉に特筆すべき貢献であり、両国の親善を深めるのに役立った」として、2011年、駐パキスタン日本国大使より感謝状が授与されました。

### 2 ボランティア活動「イオンデー」の実施



東亜大塚では、毎月25日を「イオンデー」と名づけ、社員で構成するチームによるさまざまなボランティア活動を行っています。25は韓国語でイーオーと発音することから、「ポカリスエット」のイオンとかけて名づけました。2011年10月25日には、東大門区地域内の人々のために練炭、お米を支援するボランティア活動を実施しました。気候が寒くなる10月に、暖房手段がない人々を支援する目的です。ソウル事務所員31人が、東大門区祭基洞一帯の10世帯を対象に、練炭2,000個と米20kg・12袋を届けました。今後もイオンデーのボランティア活動を継続していきます。

### 3 パキスタン洪水災害支援

2010年、2011年のパキスタンの大洪水に際し、大塚パキスタンでは、大塚製薬と協力して輸液を支援物資として提供しました。また、社員の寄付と会社のマッチングによって食料や水を準備し、被害の大きい地区へ届けました。

### 4 タイ洪水災害支援



2011年、タイ全域を襲った大洪水において、大塚製薬と大塚サハ商品開発研究所(タイ)は、洪水被害の大きい7つの県の病院や保健局に、「ポカリスエット」5万本を寄付しました。また、タイ大塚は、タイ厚生省へ義援金を寄付しました。



### 5 カンボジアの井戸掘削支援



韓国大塚製薬は、社内カフェテリアの収益すべてを、カンボジアでの井戸掘削支援と小学校設立資金に寄付しています。2011年は、井戸38カ所分の支援を行いました。

### 7 エコキャップ寄付活動



大塚倉庫やJIMROでは、ペットボトルのキャップを回収してNPO法人などに寄付し、そのリサイクル代金によって、貧困層の子どもたちにポリオワクチンを届ける活動に協力しています。全国の営業所に、ペットボトルのキャップ回収ボックスを設置しています。

### 8 「Gallyの庭」募金活動



大塚フランスでは、新鮮なフルーツを社員がいつでも食べることができるサービス「Gallyの庭」を提供しています。フルーツの代金は「がん研究のためのフランス基金」へ寄付しました。

### 6 東日本大震災支援の継続



2011年3月11日の東日本大震災に際し、大塚グループは現地の各社事務所が協力して緊急支援として飲料や水、食品などの物資提供を行いました。また、避難所における脱水状態の対策として経口補水液を届けるため、仙台を拠点に全国の社員が交代で支援にあたるなど、大塚だからできることを念頭に活動しました。省庁や業界団体からの要望に対応して本社からも物資支援を行ったほか、海外グループ社員より支援を望む声が多く寄せられたことから、大塚グループ社員39,000人※の総意としての義援金を大塚ホールディングスが日本赤十字社に届けました。その後も、各社が自社製品の物資提供や、専門家を招致した放射線と健康に関する講演会の実施、社員の自発的な募金活動などを継続して行っています。

また、被災地でのボランティア活動を希望する社員のため、ボランティア休暇を取得しやすい環境整備を行いました。

今後も大塚としてできる支援を検討し、継続していきます。 ※非連結含む

### 9 インド地震災害支援



2011年10月に発生した大地震に際し、大塚ケミカルインドの社員が、「ポカリスエット」2,400本を被災地に届けました。道路が寸断されていたため、被災地の近隣から担いで運び、直接、被災者の方々に手渡すことができました。

## 社員がいきいきと働く職場環境づくり

グローバルヘルスケア企業として社会に健康を提供する大塚グループは、すべての社員がいきいきと働くことが大切だと考えています。ダイバーシティ、ワークライフバランス、ノーマライゼーションの推進に取り組み、私たち社員一人ひとりが個々の能力を充分発揮できる会社を目指します。

### ダイバーシティ

#### ダイバーシティ推進

大塚グループでは、多様な人材を受け入れ、それぞれの強みを活かすことが、変化に耐えうる強くしなやかな組織をつくり、革新につながると考え、ダイバーシティを推進しています。

2012年3月末現在、約2万5000人の連結従業員のうち、44%が海外の従業員であり、さまざまな国籍の社員が全世界で活躍しています。また、グローバルな視点を持ちながら地域を尊重して活動するグローバル化を進めるとともに、国内外のビジネススクール派遣や留学などを通じて、国境を越えて活躍できる人材を育成しています。

#### グループ研修・勉強会の実施

大塚グループのダイバーシティは、一人ひとりがいきいきと活躍できる会社を目指し、各社の委員会やプロジェクト、任命された担当者が中心となって推進しています。定期的開催しているグループ会議では、それぞれの活動の情報交換や合同勉強会を積極的に行い、取り組みの相互理解と、活動を高めあうための議論をしています。

また、グループ社内報にダイバーシティ推進の連載コーナーを設け、各社の取り組みや、女性、海外で活躍している社員、外国籍の社員など、さまざまな社員の活躍を紹介することで、グループ社員の意識の改革を促しています。



#### ダイバーシティフォーラム 2011

大塚製薬では、年1回、ダイバーシティフォーラムを開催し、社員の意識改革を行っています。2011年は、ニュートラシューティカルズ事業部を中心に、営業部門、研究開発部門をはじめとする国内外の社員169名が参加しました。メインテーマを「変革と成長～自らが変わる～」とし、日常と異なる現場を体験し視野を広げた若手社員や、業務を通して挑戦し続けている社員の発表などにより、自ら行動し、変わっていくことの重要性に気づく有意義な会となりました。

大塚食品では、女性社員全員が参加しての意見交換を経て、「働きやすい環境づくりに関する宣言」を作成しました。そのテーマのもとに開催された「ダイバーシティ 2011～イキイキと女性が活躍して、ワクワク会社に～」では、女性視点を活かした仕事への取り組み方や、各部署での女性社員登用などについて話しあわれ、今後の活躍に期待が寄せられました。

#### ■ 女性管理職比率（対管理職全員）

	2011年3月末	2012年3月末
大塚製薬	5.42%	6.28%
大塚製薬工場	1.92%	2.11%
大鵬薬品	1.80%	1.83%
大塚化学	7.14%	7.80%
大塚食品	2.24%	2.27%



ダイバーシティフォーラム（大塚製薬）

## ワークライフバランス

### 子育て支援企業認定マーク「くるみん」の取得、維持

大塚グループでは、子育て支援企業認定マーク「くるみん」を順次取得、維持しています。また、育児や介護を行う社員が働きやすい環境を整えるため、育児休暇や有給休暇の取得を推奨し、大塚製薬では、育児短時間勤務や始業・終業の変更可能期間、介護休職取得期間において、法律を上回る制度を設けています。



#### ■ 育児休業制度利用者数

(単位：人)

	2010年度		2011年度	
	男性	女性	男性	女性
大塚製薬	1	80	2	93
大塚製薬工場	0	5	0	15
大鵬薬品	13	16	16	12
大塚化学	0	3	0	2
大塚食品	0	1	0	2
合計	14	105	18	124

### 事業所内保育所「ビーンスターク保育園とくしま」

子育てをしながら安心して働き続けられる環境を社員に提供するため、2011年4月、事業所内保育所第一号となる「ビーンスターク保育園とくしま」を徳島に開園しました。

安全で衛生的な保育環境のなかで、子どもの才能、個性、創造性を培う保育を目指しています。現在2つめの施設を建設設計中で、将来的には広く国内外に設置していく予定です。

#### VOICE



#### 育児支援を活かし仕事に励みたい

大塚化学株式会社  
研究開発本部 総合研究所  
福田 匡晃

共働きのため、2歳3カ月の息子を預けています。保育所の先生方は、日々の様子や見逃しがちな変化にも気づき伝えてくれるので、息子の普通の生活を把握でき、安心して仕事に集中できます。保育所は仕事と家庭の両立にとって、強力なサポーターです。今後も事業所内保育所という心強い制度を活かして、仕事での成果をあげていきたいと考えています。

## ノーマライゼーション

### 障がい者雇用の推進

大塚グループでは、障がいを持った人々が健常者とともに等しく生きる社会の実現を目指すノーマライゼーションの理念を大切に、雇用を推進しています。やりがいのある職場を提供するために、2011年10月には、特例子会社「は

一とふる川内」を徳島に設立しました。大塚グループ内外から仕事を創出して雇用を広げ、2012年6月現在、12名の社員が働いています。今後、さらなる雇用枠拡大に努めていきます。

#### ■ 障がい者雇用率

	2011年3月末	2012年3月末
大塚製薬	1.73%	2.07%
大塚製薬工場	2.03%	1.90%
大鵬薬品	1.62%	1.75%
大塚化学	2.65%	2.68%
大塚食品	1.40%	1.59%



## 人材育成

大塚グループが世界中で事業展開し、成長と変革を続けるためには、多様性を受け入れ、個の強みを活かすことが必要であると考え、創造性にあふれ、企業活動を主導する人材の育成に努めています。

### 能力開発研究所

先入観を取り除き、創造的な人材を育成するために、1988年3月、徳島に能力開発研究所を設立しました。「創造性」「次世代経営者育成」「大塚の文化」をテーマに研究を進めるとともに、研究成果を活かした社員研修を行っています。

研修は、多角的な視点に気づくように促す「発想の転換講座」をはじめ、組織の創造性を開発する「多様性マネジメント講座」など多岐にわたり、社員一人ひとりの創造的能力を引き出す一方で、リーダーや組織運営に必要なマネジメント力の育成にも努めています。

施設内には、創造性に必要な伝統や常識を打ち破る「発想の転換」をイメージした「巨大なトマトの木」「曲がった巨大杉」「水に浮かぶ石」という3つのモニュメントを設置し、訪れる社員やお客さまに常に問いかけています。(p.10参照)

また、隣接する「ヴェガホール」は、新しい世界との出会いを象徴して名付けられ、社員や地域の皆さまのコミュニケーションの場となっています。社内の会議やイベントを開催するほか、メセナ活動の一環として一般の方への貸し出しを行い、講演会や音楽会などに利用されています。



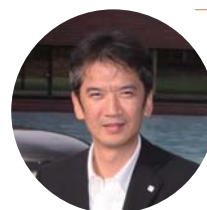
能力開発研究所外観

### 大塚の文化を学ぶ講座

大塚グループの企業理念や価値観、判断基準などを社員に伝え、考えを促すために、「大塚の文化を学ぶ講座」を実施しています。経営者のこれまでの言葉をもとに、グループが目指す姿を伝え理解を深めることで、視点と行動に変化が起こることを期待しています。それをグループのさらなる成長につなげていきます。

2011年は、大塚製菓の管理職を対象としたエッセンシャル版を、希望者にはフルバージョンの講座を実施しました。

海外グループ社員を対象とした研修にも順次着手しており、今後、この取り組みをさらに広げていきます。



#### VOICE

大塚独自の文化と理念を伝える  
「大塚の文化を学ぶ講座」

大塚製菓株式会社  
能力開発研究所 所長補佐  
深瀬 亮介

受講者の多くから、「創造性、改革の重要性、多様性、世界展開観など、日頃聞きなれていた言葉の意味を改めて理解できた」という反応が寄せられています。また、「日常の業務に追われて目先のことばかりに判断基準をおいていた自分に気がついた」という声もありました。これからも、大塚の文化や企業理念を伝え、企業を成長へ導く、創造性あふれる人材の輩出につなげていきたいと考えています。

## 社員の健康のために

大塚グループは、グローバルヘルスケア企業として、社員自らが健康について理解し、維持増進に努めることが大切だと考え、健康に関する啓発活動や教育、運動プログラムを実施しています。

### 社員の健康づくりのための社内フィットネス

社員の健康づくりを支援するため、工場、研究所が集まる徳島エリアにフィットネスルームを開設し、社内部署が運営を担当しています。2011年に全面リニューアルを行い、最新鋭の運動機器を追加するなど施設の充実を図りました。目標や体力に応じた運動メニューを提供し、産業医、保健師、管理栄養士、運動指導員が一体となった取り組みを行うことで、社員一人ひとりが「より笑顔、より健康」な生活を送れるようサポートしています。



運動風景



新規導入した運動機器

### 救急・救命講習会の実施

心停止の発見、通報、心肺蘇生法、AEDの使用と救急隊への引き継ぎまでの一連の流れを学ぶ「救急・救命講習会」を実施しています。傷病者発生時に確実な応急処置を施せる知識とスキルを学ぶことで、同じ職場で働く仲間の命を守ることを目的としています。また、社外における不測の事態にも対応できるスキルを身につけることで、社会貢献につなげたいと考えています。



救急・救命講習会

### 社内リフレッシュ運動「ポカリフレッシュ」

社員のための運動プログラムの一環として、週に一度、インストラクターがオフィス内を巡回し、8分間自分の持ち場でリフレッシュ運動をする、通称「ポカリフレッシュ」を実施しています。5年目となった現在では、実施場所を拡大するなど活動が定着し、「運動の後は仕事がかどる」と社員の好評を得ています。



ポカリフレッシュ（大塚製薬）

### いきいき健康職場プロジェクト

三交代勤務により生活習慣が乱れがちな工場勤務社員を対象に、「いきいき健康職場プロジェクト」を行っています。生活習慣を見直し、目標を定め、保健師による月1回の健康セミナーおよび計測会を実施することで、社員の自身の健康に対する意識が変わりました。保健師による電話サポート、工場や寮の食堂メニュー改善などを通じて社員の多くが減量に成功し、健康改善に役立っています。



保健師による腹部測定実施（大鵬薬品）